

## Y12a 岡山天体物理観測所乾板データアーカイブ構築の進捗

根本しおみ(有限会社天窓工房/国立天文台天文情報センター), 古荘玲子(都留文科大学/国立天文台天文情報センター), 石村周平(茨城大学), 中桐正夫, 長山省吾, 渡部潤一(国立天文台天文情報センター)

天文観測データは「その時その天域」の情報をとらえた貴重なデータであり、当初の観測者以外の第三者による研究・教育においても重要な資産である。

国立天文台では、光学赤外線観測拠点の整理統合の一環として、平成29年度に岡山天体物理観測所を廃止しハワイ観測所岡山分室としてその機能を整理縮小した。岡山天体物理観測所の開所した昭和35年以来、半世紀にわたって残された2万1千枚ほどの膨大な数の写真乾板は、同観測所の貴重な観測データである。したがって、この写真乾板データを後世の研究に活用できるようにするために、デジタル化してアーカイブし公開する必要がある。我々はすでに、明治時代の古い観測装置で撮影された天体写真乾板類についても、スキャンによりデジタル化し、データベースを作成した経験がある。同様の手法で、岡山天体物理観測所で得られた写真乾板についてもデジタル化し、観測原簿と照合した情報(観測日、観測天体名、視野の赤経・赤緯、露出時間、観測者、等)とあわせてWebで公開するという作業を行ってきた。

今回の発表では、ニュートン焦点のデータのうち作業を完了しつつある「手札」と呼ばれる乾板約3000枚について、現状を報告する。さらに、過去に行った明治時代の天体写真乾板のアーカイブについてもあわせて紹介する。